

## 令和3年度第3回自立支援協議会権利擁護部会 議事要旨

1. 開催日時 令和4年1月27日(木)午後1時30分～午後3時30分
2. 開催方法 オンライン
3. 出席者 (委員)\*団体名のみ記載  
(福) パーソナル・アシスタンスとも、浦安市社会福祉協議会  
浦安市視覚障害者の会トパーズクラブ、浦安市聴覚障害者協会、浦安手をつなぐ親の会  
(福) 敬心福祉会、(福) サンワーク、(特非) あいらんど、(特非) 千楽 chi-raku  
(特非) フレンズ、中核地域生活支援センターがじゅまる  
千葉県市川健康福祉センター、中央地域包括支援センター、社会福祉課、健康増進課  
(事務局) 障がい事業課、障がい福祉課

### 4. 議事次第

1. 開会
  2. 議題
    - (1) 第3回自立支援協議会の協議内容の報告
    - (2) 令和3年度第2回権利擁護部会の振り返り
    - (3) 8050問題実態把握に向けた調査(プレ調査)の実施状況について
    - (4) その他
  3. 閉会
- 作業部会(非公開)「8050問題実態把握の本調査に向けたプレ調査の分析について」

### 5. 配布資料

- 議題(1)資料 第3回浦安市自立支援協議会(令和3年11月25日(木))報告
- 議題(3)資料1 浦安市における「8050問題」実態把握プレ調査について(依頼)
- 議題(3)資料2-1 浦安市における「8050問題」実態把握プレ調査について(調査票1)
- 議題(3)資料2-2 浦安市における「8050問題」実態把握プレ調査について(個票)
- 議題(3)資料2-3 浦安市における「8050問題」実態把握プレ調査について(記入例)
- その他参考資料 ひだまり歯科室チラシ

### 6. 議事概要

- (1) 第3回自立支援協議会の協議内容の報告

#### ■説明(事務局)

11月25日開催の第3回自立支援協議会について事務局より報告。内容は第2回の各部会の報告と合同部会の開催案内、障がい者等歯科診療所開設、障害者週間の啓発活動の報告。

#### ■主な意見

特になし

(2) 令和3年度第2回権利擁護部会の振り返り

**■説明（リーダー）**

前回の振り返り。作業部会「8050 問題の実態把握に向けた統計調査について」、調査項目や調査先機関等について議論したこと、様々な意見がでて、調査票に反映できる部分は反映したことを説明した。

**■主な意見**

特になし

(3) 8050 問題実態把握に向けた調査（プレ調査）の実施状況について

**■説明（事務局）**

事務局より、本調査の前に、調査項目や調査票に関する意見を得るため、一部機関（7 機関＋5 民生委員）を対象にプレ調査を実施したことを報告。また、プレ調査集計結果の傾向等を説明した。

**■主な意見**

実際にプレ調査に回答した委員（中央包括支援センター、がじゅまる）より、高齢者虐待との関連や、早い（若い）段階の介入の必要性といった感想が述べられた。

(4) その他（委員や事務局からの報告事項）

**■説明（事務局）**

事務局より、1月8日に開所した「ひだまり歯科室」（浦安市障がい者等歯科診療所）のチラシの案内。

**■主な意見**

特になし

(5) 作業部会（非公開）「8050 問題実態把握の本調査に向けたプレ調査の分析について」

**■説明**

プレ調査結果を参考に、グループワークを通して、集計方法や項目の立て方、自由記述の集計の仕方について意見を出し合った。また、実際にプレ調査に回答した機関の委員から、回答を記入して感じたことや作成時間について意見が述べられた。最後に、各グループから議論した内容を共有した。

非公開会議としておこなったが、個人情報を含まない意見については次のとおり。

**■主な意見（リーダー：リ、委員：委、事務局：事）**

(1 班)

委：今回の調査は子世代の対象年齢が「40 代以上」であったが、早期把握・早期支援のためには弱年齢層を含めることも今後検討の余地がある。

委：一方で今回は「定量調査」という主旨であり、「今現在の 8050 問題の数」を洗い出すためには妥当な設定である。

委：障害者手帳の有無についての回答項目があるが、障がい種別や疾患名まで調査できるとなおよい。

委：今は表面上「問題」がなく安定しているから調査対象とならないが、将来的に 8050 問題が生じる「リスク世帯」を把握できる調査も必要。

委：プレ調査の回答でもすでに多機関が関わる世帯が重複して回答されているが、「支援機関がつながっている延べ人数」と考えればよいのではないか。

委：当事者の困り感が子世代（50 側）にあるのか親世代（80 側）にあるのか明記できる項目があるとよい。

#### （2班）

委：プレ調査様式は、おおむね回答しやすい内容、項目であった。

委：プレ調査に回答することで支援方針等をとらえ直す機会となった。

委：子世代（50 側）の幼少期・学齢期エピソードも記入できるとよい。

委：教育領域の機関にも調査結果をみてもらい、早期支援でできることを考える材料に役立てばよい。

委：調査結果の生かし方については、民間事業所からの多角的な意見も得たい。

委：市川市の場合は特別支援学校も調査に関わってもらっている。

委：今現在は子世代（50 側）もなんとか就労できていても、親が亡くなった後は不安定な場合もある。

#### （3班）

委：ある程度調査期間をとって、事前に「こういう調査がある」と告知できれば、記入する側が調査の意味や書き方をしっかりと理解して記入できる。また、機関同士で調整することで、重複の防止にもつながるかもしれない。

委：今回のプレ調査のように、調査対象の定義を明確にすると、対象外の気になる世帯が出てくる。そういう世帯も記入できる欄があるとよい。

委：回答選択肢には「ある、なし」の回答だけでなく、「不明、わからない」という回答項目があればよい。

委：支援する側が安心して支援できる環境が十分に整っていないのではないか。

委：回答は支援者が作成する。困難ケース（介入困難）を抱えていてもみんな支援方法を考えられる、というようなメッセージが加えられるとよい。

委：「こういう支援があればもっと支援が進むのに」という項目があれば、地域課題の洗い出しや不足する資源の洗い出しに役立つ。

#### （まとめ）

リ：本日の議論・意見は令和 4 年度に実施予定の本調査の調査様式に反映したい。また、本調査結果の内容をまとめ、令和 3、4 年度の部会の成果としたい。具体的な調査先等につい

ては、今後ワーキンググループで検討したい。